

[平成18年度普及に移した技術]

[普及に移す技術名] ソバ「とよむすめ」の品種特性と栽培法

[要約] 北陸研究センター育成の秋ソバ品種「とよむすめ」は、在来種に比べ、大粒、多収で、ルチン含量が高く、本県での栽培に適する。

[キーワード] ソバ、とよむすめ、ルチン

[担当] 農業試験場・作物・育種部・作物研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100 電子メール toyohiko_oida@fklab.fukui.fukui.jp

[分類] 普及

[背景・ねらい]

県内の在来ソバ種より大粒で収量性が高く、容積重も同等以上の品種または系統を選定し、栽培上の留意点も明らかにする。

[技術の内容・特徴]

1. 主な特性

- 1) 生態型は中間型に区分される。大野在来に比べて、開花期は1日、成熟期は4日程度早い。
- 2) 草型は直立分枝伸長型に区分される。主茎の丈や節数は大野在来よりやや小さく、倒伏にも強い。ただし、発芽直後の葉は大きく、葉の展開も速い。
- 3) 個体当たり花房数も大野在来より少ないが、大粒なので多収である。
- 4) 大粒の割に容積重は大野在来や他の在来種にも遜色なく充実している。

2. 栽培のポイント

- 1) 好適な播種期は、既存系統同様に8月中旬である。なお、播種期が変動しても在来系統に比べての収量の優位性は変わらないが、早播による粒の充実低下はやや大きい。
- 2) 粒の黒化時期は美山南宮地在来と大野在来の間で、常陸秋そばよりわずかに早い。早播すると頂花房などに青粒や花が残りやすいが、大野在来よりは斉一に黒化する。
- 3) 在来系統に比べ幾分脱粒しにくいですが、黒化率70~80%の段階でほぼ収量は確保されているので、刈り遅れない方が無難である。

[技術の活用面・留意点]

1. 他殖性なので、導入に当たっては採種体制の整備が不可欠である。仮にとよむすめ種子は県外から購入するとしても、既存産地へ部分的に導入する場合は、当該地域の既存系統の維持に配慮を要する。

[普及計画]

普及目標：当面、3産地で全面転換6ha。そのうち1組織で採種契約。

普及対象：地縁的にまとまり、計画的に取り組む産地

[具体的データ]

表1 「とよむすめ」の生育概況

	播種期	開花期	成熟期	倒伏	主茎	主茎	分枝	花房	子実重	左比	千粒	容積
	月/日	月/日	月/日	0~5	長	節数	数	数	kg/10a	%	重	重
とよむすめ	8/16	9/13	11/1	1.1	90	10.9	3.0	20	165	125	37.2	634
標) 大野在来	8/16	9/14	11/5	1.3	94	11.2	3.0	29	131	100	26.2	634
比) 美山南宮地在来	8/16	9/9	10/22	1.2	73	8.9	2.7	19	123	94	31.1	535

99~'04農試場内試験の平均，ただし容積重は'99~'01

表2 「とよむすめ」の現地試作結果(平成17年)

場所	品種	播種法	播種期	成熟期	栽植本数 本/m ²	倒伏 0-5	主茎長 cm	主茎節数	収量 kg/10a	千粒重 g	容積重 g/L	ルチン
												含量 mg%
福井市 高須町	とよむすめ	散	8/20	10/24	96	1	87	11	231	35.0	665	30
	比) 在来	散	8/25	11/2	222	1	106	11	176	26.1	665	24
福井市 一乗	とよむすめ	散	8/25	10/25	120	0	74	9	132	36.7	683	36
	比) 大野在来	散	8/20	10/30	56	4	105	13	107	25.2	678	22
南越前町 旧今庄町	とよむすめ	散	8/25	10/26	184	0	83	9	131	35.0	683	34
	比) 今庄在来	条	8/19	10/24	141	0	72	11	126	24.1	680	28

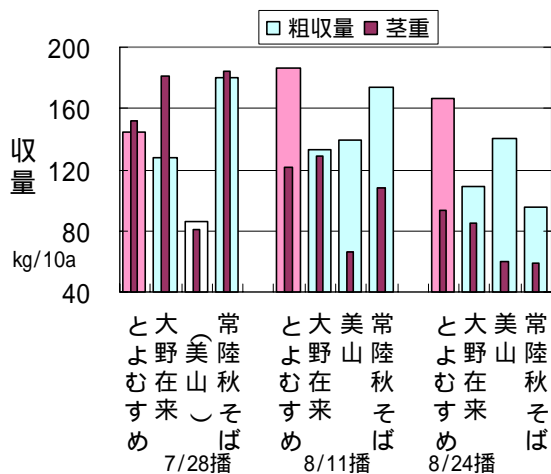


図1 播種期と収量

7/28 播の美山南宮地在来は種子が老化し
ており著しく出芽が劣ったので参考値

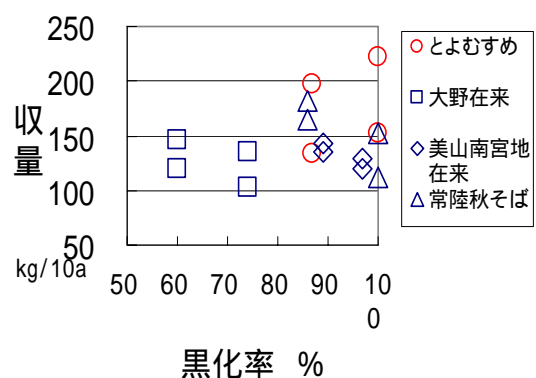


図2 刈取時期と収量

[その他]

研究課題名：ソバ有望系統適応性試験

研究期間：1999~2005 年度

研究担当者：笈田豊彦、井上健一、山田実